

## 旧若杉小学校跡地の本格活用に関するワークショップ 参加者アンケートの結果

### 問1 ご年齢をお聞かせください

20代以下	1
30代	0
40代	2
50代	3
60代	7
70代	6
80代以上	1
未回答	1
合計	21

### 問2 ワークショップの開催回数・時間等の設定は適切でしたか

#### ○開催の回数（計4回）

少ない	2
どちらかというと少ない	4
ちょうど良い	12
どちらかという和多い	0
多い	3
未回答	0
合計	21

#### ○各回の間隔（1か月に1回程度）

短い	0
どちらかという短い	2
ちょうど良い	15
どちらかという長い	1
長い	2
未回答	1
合計	21

#### ○1回当たりの時間（1回当たり3時間）

短い	0
どちらかという短い	2
ちょうど良い	11
どちらかという長い	5
長い	3
未回答	0
合計	21

#### ○各回の進行速度

早い	1
どちらかという早い	2
ちょうど良い	13
どちらかという遅い	2
遅い	2
未回答	1
合計	21

#### ○グループの人数（1グループ7名程度）

少ない	0
どちらかという少ない	0
ちょうど良い	16
どちらかという多い	4
多い	0
未回答	1
合計	21

### 問3 活用方法を検討するに当たり、第2回からは活用アイデアが近い参加者同士でグループを構成し直しましたが、この進め方についてどのように思いますか

良かった	8
どちらかという良かった	7
どちらでもない	3
どちらかという良くなかった	2
良くなかった	1
未回答	0
合計	21

(その理由)

実現のためのアイデアは違くとも核となる部分が近い方が多く話しやすかった。
方向性が同じなので出てくるアイデアにアイデアが重なり厚みが増したと感じた。
共通認識ができた。
短期間に話しをまとめるには、問題意識が近いと話しやすい。
共通の思いを具現化、強化するアイデアを話しやすかった。
議論がうまくかみ合った。
意見がまとまりやすい。
意見をまとめやすくなる。
アイデアが近くないと議論になり、話がまとまらなくなる。そういうことがなかったから。
多すぎてもまとまらないから。
共通した問題意識を持った方が数名集まっていたからこそ、他の班とは違う趣旨の提案ができたのだと思います。提案の良し悪しはともかくとして。彼らが別々の班に分散していたらその問題意識は埋もれてしまったかもしれない。
もちろん、自分がもし違う班にいたら、まったく別な課題、議論、結論があったのだらうと思うことはあります。しかし、それもひとつの出会いなので、今回のように普段の自分とは縁遠い課題に向き合えたことは逆にラッキーでした。
同じように特異な班があといくつかあってもよかったと思います。7班の発表で「もう他の班で言いつくされてしまった」との発言がありました。もっとバラエティに富んだ提案が出てきたかもしれません。
回が進むにつれ、同じメンバーである安心感が増えてゆきました。区の職員の方を含め、メンバーの気心も知れ、課題もだんだん見えてきます。積み重ねは、やはり厚みにつながるのではないのでしょうか。
もし、途中で班替えの話が出たら、断固反対していたことでしょう。
アイデアが近い人同士でまとめたほうが、まとまりやすいと思うが、異なった意見がある中で違いを認識しながらまとめるのも一つである。ただしファシリテーターが苦労しそうである。
どのグループも思いは同じような感じがしました。
1. もともと参加者が代的にも、職業的にも偏っており、区民の代表的意見とはなり得ない構成となっている。 参加者の大半が引退世代であったり、自営業（商売）をして時間的に融通がきく人たちが大半を占めていた。 つまり納税世代（労働人口）のうち20代から50代の会社員（男女共）は参加が困難なため意見を集約できないと思われる。 職業的な分布は情報不足でわからないが、区民のなかで、住民税/都市計画税（地方税）納税の主役を占めている人々の意見を主として集約すべきところではないだろうか。
2. あまりに基本的情報が少なすぎ、あるいは想定に限られていて、ふわふわとして単なる願望的な意見集約であった。 以下の基本情報がまったくない。 ・20代から40代の会社員（男女共）の要望としては保育園や学童クラブの要求が主となるはず。出産数減による需要減少の予測は、現状の人口を基に出していると思われるが、今後流入人口の増加がないとは必ずしもいえない。 （江東区などは急激に増えていたはず。敷地の細分化、あるいは統合中高層建築化による子育て世代人口増といったことは充分想定しうる。） ・震災時の被害予想から、受け入れるべき被災者の数及び必要な平米数 ← これにより防災拠点として備えるべき機能が変わってくる。 ・天沼出張所の移転先がはっきりしていない状況で一概に、周辺住宅地や道路拡幅の問題だけで排除とすることに問題がある。 即ち、震災時の火災をどれだけ抑え込めるかが問題、出張所の移転による機能Up（どこでもいいが実現可能なのかどうかという前提）は重大な影響をもつ（天沼八幡裏手の都営住宅？はまだ新しいが、取壊し移転できるのか？） ← これにより防災拠点として備えるべき機能が変わってくる。 ・また、衛生病院の存在は大きな火災発生リスクをはらんでいる。関東大震災時の記録を纏めた本では、薬品類が保管されている施設（病院、学校の理科実験室、薬局）からの火災発生が記録されている。一般に延焼を防ぐには70mの空間が必要となる（親水公園的施設の必要性）が、これに関する意見は出ていない。
3. 予算からどの程度の平米数の建物が建つのか？といった情報がまったくないので、いれこみたい機能の割り付けがおおよそでもできない。 ・収容する被災者一人当たり3㎡（1坪）とすれば体育館1500㎡で400人ぐらいだが、体育館以外の普通の部屋では気積の関係から同じ割合ではカウントできないはず。周辺小中学校（天沼中学校、天沼小学校、沓掛小学校）といった施設での収容想定人員も不明。また、短期受け入れなのか長期受け入れなのかも想定がない。単に3日間備蓄でよいのか？ 長期なら物資輸送ヘリポートが必要。 ・施設完成時の集客予想も不明。カフェなどといってもタウンセブンの大黒広場や杉並区役所のロビー（障害者による運営）を見てもわかるように、一般企業が運営するほどの集客がないからこそ、ルミネの中でスターバックス等が出店している訳で、駅から距離もあり、買物客も見込めないロケーションでの出店は期待できないだろう。

同じような考え方のグループであればもっと議論の詳細や深掘りが可能だったように思う。  
 アイデアが近いのは表面的な要素でそこに至るバックボーンが見えない。

アイディアが近いグループで2回程度意見交換し、再度組み替えを行いそのグループで議論をすると、更に構想が広がると思う。その後再度個人の意見を収集し、個人のアイディアが近い人材でグループを再構成するステップが望まれる。その理由は、最初に描いていたイメージが徐々に変化していくこと、また他の考えも参考にして個人の構想を広げることにより、更に良い考えに到達できると思うことによる。

4ヶ月のスケジュールでは無理で、最低でも半年は必要と思われる。

**問4 グループに進行役として入った区職員は、参加者同士が自由に発言できる場づくり、参加者への発言の促しや出された意見のまとめが適切にできていたと思いますか**

できていた	10
どちらかというとできていた	8
どちらでもない	1
どちらかというとできていなかった	1
できていなかった	1
未回答	0
合計	21

(自由記述)

各班の職員の方も、全体の運営も回を追いつながら試行錯誤を続けていかれたことと思います。ありがとうございました。

グループワークでは、適度に我々の議論を見守りながらも、絶妙なタイミングでの助け舟や介入の按配の見事さ、客観的でたぶん我々よりも的確に内容を把握されていると思う各回のまとめ、さらには敷地模型の製作と、その熱量、熱意、作業量には正直驚きました。

杉並区の若手職員の方々に優れた人材がたくさんいらっしゃる事がわかり、安心です。

褒め殺しのような文章ですが、本心でそう思っています。

全員が話せるよううまく進行してくださっていた。

ある程度任せてくれました。

行政の立場も偏りなく述べていたと思うこと、また参加者にもうまく発言を促していたと思う。

話を適切に進め、次の回のときには、前回の内容をまとめ、確認してくださったり、その次への叩き台を準備してくださったり、と非常にお世話になりました。職員の方がいらしゃったからこそ、うまく話がまとまったと思います。

知らない同士で遠慮もあるので潤滑剤になってくれた。

纏め、発表をよくしてくれていた。

参加者の意見を引き出すように努め、よくまとめていらした。

気持ちよく進行役としての役目を果たされていたと思う。

参加者のアイデアを引き出す為、前回のまとめや関連しそうな他の事例の紹介、区庁内の情報提供など色々工夫していた。

参加者の意見を丁寧に聞き出し、整理していた。

進行の間合いが上手かった。

前回の意見をわかりやすくまとめてもらった。参考になった。

発言は自由にできたが周りの騒音で聞き取りにくいところがあり集中してテーマに分けて集中的に議論ができないところもあった。

各班の最終アウトプットに対してどのようにアプローチしてファシリテーターが意見を集約していくのかの方法論が確立されていない。

**問5 ワークショップでの各グループの跡地活用案の検討まとめとして、グループで成果物ワークシートを作成していただきましたが、それに向けた各回の進め方は適切だったと思いますか**

適切だった	6
どちらかという適切だった	9
どちらでもない	3
どちらかという適切ではなかった	2
適切ではなかった	1
未回答	0
合計	21

(自由記述)

わかりやすくまとめられていたと思うから。

最後のまとめの段階で、それまでのグループ内議論を適切にまとめてくれていて、結論を導き出すのに大いに役立ったと思う。

回を重ねる度に具体的になっていった。

纏め、発表をよくしてくれていた。

各人の意見が出やすい。

前回までの話し合い結果を踏まえた進行、敷地の広さを実感させる模型の活用などにより、参加者が自分の望む方向性が取り入れられたまとめとなったと実感できたのではないかと。
アイデアをたくさん出しつつ、集約に向けて進めるよう段取りが工夫されていた。
最低限は網羅出来たと思われま。
各回というより、やはり全体としてグループワークの時間が足りなかったな、という思いです。もう一回くらい、第五回、があってもよかったです。班としていろいろ馴染んできたところなので、もったいないなという気持ちがあります。
ワークシートの作成までの過程は良かったと思う。ただ、各班もう少しフォーマットを共通にしてプレゼンテーションを対比させた方がわかりやすいと感じた。スクリーンは1画面でもよいかから大型が望ましい。
進め方はこれ以外方法はないと思われるが、成果物をまとめるにあたり、ポストイット等を利用したプレスト方法が確立していなかった。
最終的には成果物ワークシートが出来上がりましたが、これからの進行が気になるところです。
そもそも回数が多すぎ！

#### 問6 ワークショップへの参加を通じて区政に参画できたと思いますか

できた	4
どちらかというときできた	8
どちらでもない	7
どちらかというときできなかった	1
できなかった	0
未回答	1
合計	21

(自由記述)

このワークショップ以前の話し合いも含め、地元の一員として行政の担当の方々と話し合えたことは、いろいろ勉強になったことと、そして今後、杉並区の自治への関わり方において種々の観点で役に立つだろうと思われることから。
参加を通じて現場周辺の生の声や実情を区に伝えることは出来たと感じたので。
意見は区の担当者に伝わったと感じた。
意見を発表できる場と思う。
区に対して意見をいう場所を提供してもらい深く感謝しております。ありがとうございました。
これからの注目したい。
区政に参画というよりは、地域の課題、区民の問題に関わられた、といううれしさはありました。
それなりに思い入れや愛着のようなものも芽生えましたので、これからのことが気になります。どう進んでいくのか？行政や専門家による検討が進んでいき、案が固まっていくのでしょうか、ワークショップの思いや熱意はどれほど伝わっていくのか？「これだけのことをやらせておいて、手を抜いたようなものを作ったら許しませんよ。あなたたちは我々に対してそれだけの責任を負ってしまっているのですよ」とは、さすがに言い過ぎですが、良いものができるよう見守っていきたいと思います。もし、これから何かできることがあれば、また協力させていただければという思いもあります。
あと、杉並区側の感想もうかがえればと思います。果たして我々のワークショップは役にたったのでしょうか？
区政に参加できたかは今回のワークショップでの意見がどこまでいかされるかによる。
今後方向性が決まった時点で参画できたか実感すると思う。
提案が採用されるとは限らない。
参画というには不十分。
あまりに基本的情報が少なすぎ、あるいは想定が限られていて、ふわふわとして単なる願望的な意見集約であった。
もっと具体的な建物イメージまで詰められるよう、建築設計者によるコーディネートが必要。
4回中2回しか参加できなかったため。

#### 問7 ワークショップに参加して良かったと思いますか

良かった	11
どちらかというとき良かった	5
どちらでもない	2
どちらかというとき良くなかった	2
良くなかった	0
未回答	1
合計	21

(自由記述)

このような機会がなければ会えない人たちに会え、向き合えない課題に携わることができました。ワークショップの日以外にもいろいろ考えたり悩んだりすることもありました。それも含めて有意義な期間を過ごすことができました。語弊のある言い方もかもしれませんが、楽しかった。自分の楽しさが、他の人の迷惑になっていなければ良いのですが。
普段関わらない人たちと交流ができた。

自分の意見を言えたと思うから。
地元の一員として、近隣のより良い環境について考え、真剣に議論出来たことは自分にとっても良い経験をできたと思うことによる。
多くの方がボランティアで、区の行政に関わっていらっしゃることを初めて知りました。これまで、そのような機会がないまま、17年、杉並区に暮らしてきましたが、このような方々や区の職員の方々のご尽力によって、自分の生活が成り立っていることがよくわかりました。
ワークショップに初参加でしたが 完成がどのようになるかが楽しみです。
参加を通じて自らの思いや要望を区に伝えることは出来たと感じたので。
多様な知見を持つ人との議論が有意義かつ楽しかった。
色々な考えが聞けて良かった。
区民の意見を集約する現場に立ち会えて嬉しかった。
理解を深めることができ、今後の展開が期待される。
区政に参加できたかは今回のワークショップでの意見がどこまでいかされるかによる。
地元の状況を知らない区内各所からの参加者もいるのでなんとなく理想的すぎるまともになってしまったと思う。
あまりに基本的情報が少なすぎ、あるいは想定が限られていて、ふわふわとして単なる願望的な意見集約であった。
もっと具体的な建物イメージまで詰められるよう、建築設計者によるコーディネートが必要。

#### 問8 ワークショップについて、改善が必要だと感じたことがあればご記入ください

中高生も入ってほしい。
必要な基本的情報を示さないといけない。
グループ間の意見交換までは十分出来なかった点は残念。あとは今後の話だが、このワークショップの成果が活かされたかどうか分かる様、今後の跡地活用に関する方針の検討・策定状況も途中経過から随時発信して欲しい。
机が狭かった。会議以外の日も情報交換できるようslackなどを活用すると、さらに議論が深まると思った。班以外の人との交流が少なかったが、班ごとにチャンネルを作り、他班のチャンネルも見られるようにすると、全体でどのようなアイデアが出ているのかが共有できるのではないかと。
大きな方向性について(防災拠点、子どもの居場所、その他)、事前に区民アンケートを取っても良かったのではないかと。
3時間は長すぎ。せいぜい2時間くらい。参加人数がちよっと多いような気がする。
最終成果物・アウトプットは本当に良かったのか、最終成果物、アウトプットを作成するためのアプローチは本当に良かったのかを吟味する必要があると思います。
紙の資料が多いので、データのみでいただければと思います。
1回やれば充分。
もし第五回があったとしたら、各班の発表を聞いた後、それを踏まえた上で、再び自分たちの班の課題に向き合う時間が欲しかった。また、班を越えた話し合いという質疑応答のようなものもしてみたかった。「平時にできないことは発災時にはできない」というような提案があったと記憶しています。我々の班(2班)は、ダイバーシティ、社会的弱者に焦点を当てて議論してきたわけですが、「災害が起きていないように見える日常の中で、安全安心がおびやかされている人たちがいる。そういう人たちを助けたり救ったり支えたりできない施設が、災害時に誰を救えるのか？」くらいのことは言ってみたかったですね。
区長と仲の良いグループ(平和館を建てたい人々)をこのワークショップに入れ、区長自らその主張を展開した事は、全く納得できず遺憾を感じる。この先も地元の語りぐさになると思う。この種の行政は「地元の意見尊重」が大原則で、旧若杉小跡地を15年以上も何の施策も入れずに放置した行政の罪は大きいと認識し、是非、地元の意志を尊重して欲しいと切に願います。
私が参加したグループは終始和やかで、非常に雰囲気よく話すことができました。それには、区の職員の方がうまく入ってくれたということもあると思いますし、大御所というか、長く、区の会議等に関わっていらっしゃる高齢男性の方々、穏やかに話せる方々だったということも大きいと思います。ただ、周りのグループからは、時折、白熱しすぎではないかと思えるような声も聞こえてきましたし、区の職員の方に対し、叱責とまではいかないのかもしれないのですが、強いご意見を言う声も聞こえました。この辺りについては、話し合いのグラドルールをもう少し丁寧に(強い物言いをしない方向で)全体で確認することなどで、ある程度、防ぐことが可能かもしれないと思いました。とはいえ、そのような声が聞こえてきたときは、心から「お疲れさまです」と思いました。最もパワーを持ちそうな層に対して、ある程度、牽制しておくことで、ご苦勞が軽減されることを願っております。
区内各地域の居住者と交流できる場に参加できることは、今までなかったので、大変良い経験となりました。

#### 問9 ワークショップに参加して感じたことがあればご記入ください

皆さん共通の思いを感じました。
多くの方の意見が聞けた。
前から気にしていた若杉小跡地活用に意見を発信できる場を頂けたことに感謝しています。後はこの成果を見るのがあまり先にならない様、延期無しでの実施を切にお願い致します。
司会、進行にあたる職員の方、讃岐先生の的確なコメントで議論が弾みました。ありがとうございました。

<p>区がこのようなワークショップを区民に提供してくれたことを深く感謝しております。このような区民の活躍の場を今後も提供してくれることを期待しております。またワークショップに参加された区民の方々の人財能力を把握し得ておき、区のために適材適所で活躍する場も準備いただければと思います。何か活躍する場がありましたらお声がけいただければ幸いです。</p>
<p>想像もしなかったような意見を聞くことができ、勉強になった。</p>
<p>初めての参加でしたので、どのように望み、対応したらよいのか、初めは戸惑いました。参加者の思いや意見をしっかりと聞いて、意見交換することの大切さを痛感し、とても良い経験となりました。ありがとうございました。</p>
<p>非常に勉強になる良い機会でした。ありがとうございました。</p> <p>元々の動機としては、旧若杉小が今でも十分に活用されている（子どもがさざんか教室に通っているの）ということを訴えたくて、参加しました。その点においては、既に建て替えが決まっており、教室の移転も決定事項とのことで、私の想定と違っていました（不勉強だっただけだと思います）が、市民が参加し、行政を進めていくという形を体験することができ、今後の自分の生活にとって、有益な機会だったと思います。ありがとうございました。</p>
<p>ご紹介いただいた参考事例「ののあおやま」に行ってきました。ここは以前たまたま通りすぎたことがあったのですが、あらためて見てみると、本気で「森を育てている」のが良くわかりました。あちらこちらのベンチには誰かが座っていて、子供たちも遊んでいる。キッチンカーのようなものもある。数人の作業の方がずっと手入れをされていて、運営、交流、情報発信のための施設もちゃんとある。すでに立派に森になっていますが、数十年後どんなに森になっているだろうと考えると羨ましい。生きている間に見られるかわかりませんが。</p> <p>素晴らしいロールモデルなので参考にさせていただきたいのですが、樹種の多さ、それにもかかわらず行き届いた手入れ、水辺の生物の在来種へのこだわりなど、ここまでのことがはたしてできるだろうか、と若干怯んでしまったのもまた正直なところでした。</p> <p>実は、4回目のワークショップに行く途中、中央図書館に寄ったのですが、あそこの裏庭は小ぶりな林になっていて、そこに結構な数の椅子、ベンチがあります。中学生のグループがテーブルを囲むなど、この寒気の最中、すべて人で埋まっているのです。隣の芝生の公園には誰もいないのに。なかなか捨てたものではないな、と思ったことを付け加えておきます。このことはワークショップ当日に話したかったのですが、時間がなくてできなかったのです、ここに書きます。</p>
<p>必要な基本的情報を示さないといけない。</p>
<p>ワークショップをして区民の声を聞くという形式的な取り組みに思えた。専門家が取り組むほうがよい。</p>
<p>問8へのコメントが全てで、是非、地元の意見を尊重してください。間違っても区長による独断、または行政の都合のみで事が運ばぬよう、切に望みます。</p>
<p>天沼のアメニティを考えるのなら天沼の情報が欲しい。例えば</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1：天沼小学校では児童が放課後校庭で遊べないので町会が分担して「朝遊び」を見守っているが高齢化が進み難しい状況と聞いている。実態はどうか？</li> <li>2：天沼には認可・不認可の保育園が多くある。運動会など小学校の校庭を借りたり日頃の公園も手狭だ。遊び方にも制限が出ていると思う。保育園の箇所など人数の把握もデータとして必要だったのではないかな？</li> <li>3：天沼出張所の移転の問題が出ていたが消防署の必要条件が明示されないで議論されるのはどうなのかな？</li> <li>4：施設再編でウェルファームの集会室（特に飲食）がなくなり総会・新年会（約100人規模）に費用負担が生じている。天沼サロン等も以前より費用負担が大きくなっている。</li> <li>5：天沼地域は木密地域にあたり火災予防の緩衝地帯も必要ではないかな？</li> <li>6：自習・ラーニングスペース等の意見もあるが天中の放課後授業の実態はどうなっているのかな？</li> <li>7：雨季など公園が遊び場にならず乳幼児等の居場所がない。</li> <li>8：“キッチンあまめま”も天小の児童の提案のようにスペースの問題がある。</li> </ol> <p>天沼の課題を浮き彫りにして情報化する必要があったのではないかな？</p> <p>多様な場所：ジェンダーや引きこもり、LGBTQの人たちの居場所や発信場所は区全体の問題であり社会福祉協議会なども関係してくると思う。</p> <p>“マイノリティ”の問題も具体的に全国的にどのような取り組みがなされ跡地活用とどのようにリンクさせるのか事例の紹介があれば理解ができたと思う。（ソフト面なのかハード面なのかよくわからない）</p> <p>目的が多様な意見の先に天沼のアメニティを目指したものなのかな？</p> <p>今回が最終のワークショップになりその後3月28・29日のオープンハウスが我々が関与できる最終地点なのかなここからのプロセスが見えていない。ワークショップが区の免罪符にならないことを願っています。</p>
<p>3回目終了時にはこの後どうなるのかとあまりに終着点が見えなくてガッカリしておりましたが、4回目の成果物に纏めて一応の形になり軽い満足感を得ることが出来ました。</p> <p>しかしながらこれまでの長い年月を考えこの度も区から提案がなく始まり、又以前とあまり変わらない様子にウンザリはしています。少しでも皆が満足出来て感謝される場所となりますよう期待します。</p> <p>言うまでもなく震災救援所の設置は 防災倉庫も含めて必須と考えます。</p>
<p>ワークショップは区民が区政に参加できる良い方法だと思うが、忙しい人、日曜日仕事の人などは参加出来ないで、なるべく多数の区民の意見を聞ける仕組みも検討するといいいのではないかな(例:ネットアンケートを取ってAIでどんなニーズがあるか分類、どの事業にどれくらい予算を付ければ区全体の幸福度が最大化するかシミュレーション)</p>
<p>平成20年懇談会、令和5年6年の町会での提言の内容とあまり変わらない。防災意識が随分高まってると感じた。</p>

主催者の自己満足→結論・決定は出ない

7グループ×10人=70人、3時間×4回=12時間→1回やれば充分でした

ワークショップで発表した提案をなるべく採用いただきたいこと。アイデアを形にする上で、ワークショップを行うことは必要であること。